

安全性、経済面に優れ注目

米ロケットプレーン社副社長、大樹視察

開発機にカムイ搭載構想



カムイロケットについて語るラウアー副社長

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC、札幌)と業務提携を結んでいる「ロケットプレーン社(米国オクラホマ州)のチャールズ・ラウアー副社長が14日、町内で行われたCAMUI(カムイ)型ハイブリッドロケットの打ち上げ試験を初めて視察した。

同社は開発中の宇宙往還機からカムイロケットを打ち上げる構想を持っており、ラウアー副社長は同ロケットについて「安全性や経済面で優れている。非常に注目している」と話した。

同社は1995年、宇宙往還機の開発に着手。2012年には「ロケットプレーンXP」の機体を公開する予定。XPはパイロット1人、乗客5人の6人乗りで、高度100時ほどの宇宙圏を飛行。宇宙遊泳や地球観測、無重力実験などへの活用が期待されている。さらに、XPにカムイロケットを載せ、高高度から

発射することも考えているという。

XPの開発では、離着陸するスペースポートも必要となる。ラウアー副社長は「大樹は海に面していて、地形がとても良い。町も昔から宇宙への取り組みを続けていて素晴らしい」と絶賛した。

(佐藤圭史)